

と自然の中に判つて來ますそして第一の親切なる教師にはと申せば。

子供に宗教心を教へ込むには、先づ母親が神を信する人になることが大切であらうと思ひます。母が教師になつて、親切に教へてやりますと、子供は同じことを幾度でも聞くものでありますから、學校を卒業する迄には、立派な人格となり親或は監督者の許を離れても神様を手本とするやうな習慣がつくやうになり如何なる境遇にも打勝つ

子供の癖に就て

(五)表情に表裏のある子供

不斷子供の表情に注意して能く指導することは教育上最大切なることは申すまでもありません、子供の中には尊長其の他目上の人の前には

やうになるでありませんや兎に角私の經驗によりますと小兒のわるくなるのもよくなるのも皆私共監督者の品性及び注意不注意によると存ます私のついでそがしい爲例へば復習させる事を怠りますとすぐ成績に影響するのを見ても分ります。かわゆい子供を育つる人は無教育な無責任な人に預けて安心して外出などあんまりできない事とつくづく思ひます。

本郷誠之小學校長 杉 浦 恂 太 郎

極めて温順らしく殊勝を装ひ同輩又は目下の者に勝手我儘な振舞をして兎角表情に表裏のある子供があります、之を矯正せず其の儘にして成長させますと後には信用の置けぬ忌むべき人格となり

ます。

遺傳と境遇と二つの原因があらうと思ひますが、生後の境遇から來ることも尠くありません。例へば母や其の他の人が姑息の愛を掛け誰々には内々で又は陰にて他人の是非を話し若しくは其の子供を酷く取扱ふ所より自ら表裏の言行をなし第二の天性となるやうなことがあります、因て來る所を能く調べて後矯正に手を付けねばなりません。之を矯正するには成るべく温情を以て接し物事に悲觀せしむること無く行を二つにすることと人の機嫌など窺つて表裏のある言動をなすことは極めて悪しきことを訓誡し人は總て有りの儘なるを貴きこととして獎勵し、一方潔白にして快濶なる友を選びて交遊せしめ指導者は威嚴と恩愛との二つを以て始終勵まして行かねばならぬと考へます。

(六) 怒り易き子供

僅なことに怒氣を發し直に朋友などに手出しをするやうな子供があります、又我が思ふことが徹らぬと地壇駄を踏むで手に餘るものもあります、是等は固より悪る氣のある子供ではありませぬが人に危険に感じられて朋友なども共に交はらず終に孤立するやうになります。之も遺傳もありますがおひ立ちの事情に因るものもあります、例へば餘り我儘勝手を徹させ過ぎ又は家族中に短氣な性の人があつて知らず識らずの間に之を見倣ふて習癖となつた子供も尠くありません。

斯様な子供を矯正するには性格の反對な子供則成るべく忍耐のある友を選びて交はらせ、一方本能的に短氣を發したる機會を捕へて靜に能く訓誡を與へ勉て自覺せしむるやう手段方法を盡すが肝要と思ひます、又沈着の性を養ふに適した童話等を選びて之を聞かしめ遂に其の趣味を感ずるや

う導くことも一の方法であると考へます。

(七) 移り氣の多き子供

新規を好むは人情であります況して子供は新しき變つたことを喜ぶのは當然でありますが、子供の中には最甚しいのがあります、例へば遊ぶ中にも甲から乙、乙より丙、丙より丁と少しも一事に注意と興味とを持續せぬ性質の子供がおります、之は遺傳もありませうがおひ立ちの境遇から來ることがあります、例へば毎日目先の變つた玩具などを澤山に與へ過ぎて忽ち玩具の山をなしたれもこれも飽きて終には新しき物新しき物と好むやうな習慣が出來て注意が誠に移り易くなつたのもあります。

是の癖を矯めるに其の性質に因つて方法を定めねばなりませんぬが先づ玩具其の他に就て物の用ひやう又は遊びやうに成るべく細に注意せしめ自然習熟することに因つて興味を感せしむるやう導く

ことが必要と思ひます、則注意の持續性を養ふことであります。

(八) 自分勝手の多き子供

何事も自己に都合の好いことは言ひもし又行ひもするが朋友其の他の言ふことには少しも耳を傾けず知らぬ振をし他人の困ること又は他人の爲には行ふことをせぬ子供に似合ぬ性質を持つものがあります、則利己心の強い子供であります。是は遺傳と習慣と二つを併せて來ることが多いやうであります。

此の矯正は頗る困難でありますが兎に角機會ある毎に能く誠めて自他利害の共通することを自覺せしめ勉めて物事に協力せしめ具體的に導き且つ賞罰と制裁とを明かにすることが大切であります。

(六) 出しやばり過ぎる子供

何でもかでもよく知つた振りをして誰よりも一番先に喋々しく口を出し俗に云ふ高慢ちきで子供

らしく無い癖のものがありません、此の癖は遺傳より来り又境遇にも因りますが其の儘棄て置くときは將來信用の薄い人となるでありません。

之を矯正するには教育者は威嚴を保ち彼持前の癖を出したるときは之に應ずること無く不言にして制裁を感せしめ又不言實行の人の例話などを多く説き聞かせて知らず識らずの間に性を移すやう力を盡すが必要であります。

(一〇) 理窟を言ふ子供

物を與へられても多量にか僅かだとか、事を言付けられても從順でなく何とか小理窟がましいことを言つて快く受けぬ習癖を持つ子供がおります。之も因つて來る所を調べ然る後矯正法を考へねばならぬのであります、斯様な子供は總ての進歩に害があつて人に厭はるゝやうになります。

此の矯正法は無益な理窟を捏ねるときに物事を中止し希望を達せしめず却て不言實行の勝れるこ

とを自覺せしむるやう導き、又他方には寡黙寛容な性格を供ふる子供を選びて之と交遊せしむることが大切と思ひます。

(一一) 虚榮好きの子供

衣服其の他の物品より玩具などまで子供に似合はぬ驕つたものを好み之を他人に見せて己一人立派であると言ふやうな心持ちをして誇りたがる癖のあるハイカラな子供がおります、之は遺傳もありませうが是迄經驗した所では境遇より習癖となつた子供が多くあります。

是は子供を訓育して改めしむることも無論必要であります。先づ兩親を初め家庭に於て華著な慣習を止め萬事を自ら戒めて質朴に育てるやう境遇より改むることが最も効が多からうと考へます、子供は總て見様見真似をして人と成るといふことを忘れてはならぬと思ひます。

(一二) 物をかくす子供

子供の中には自分の所持して居る物を人に見られることが厭で直きかく癖のあるのがあります。學校の教室で美術其の他筆記などの時に身體をかいて人に見せぬやうにかくして居るのは多く見るところでは遺傳にても習慣にてもいづれしても性質の宜しくない癖であります。教訓して公明正大と云ふことを自覺せしむると同時に監督を厳にして早くこの習慣を改めしむるが大切であります。

(一二) 嘘言の子供

方便と云ふことも知らず時と所とを選ばず總て有りの儘に其の性質を顯はすのが無邪氣で子供の貴い所であります。然るに僅かのことに嘘を言ふて信用の出来ぬ子供があります。遺傳から來たのであると矯正に困難でありますが習慣に原因したのなら能く調べて其の境遇を變へ極めて正直な朋友と交らしめ言行に注意して教訓を加へ賞罰を明にして良心を喚起するやう努むることが必要

と考へます。

(一四) 野鄙なまねをする子供

遊びをするにも言語にても其の本能的から働くことが兎角下品なことばかりをする子供があります。斯様な質を持つ子供の中には遺傳もありませうが境遇から來た習慣が多くあります。下劣なことをしたときは其の場で之を改め行はしめ言語も改め言はしめ反復修養せしめて漸次高尚な言語動作に慣れしむるやう努むるが大切であります。

(一五) 滑稽なまねをする子供

有意注意を要する場合は眞面目であるべき時に意表な言語を吐き舉動をして人を笑はせ其の場の締めくゝりの付かぬやうなことをする質の子供があります。之も遺傳もあり習慣もあります。斯様な子供は成るべく自尊心の深い物事に熱心する性のある子供と交遊せしめ特に訓戒して威嚴を正し矯正することが大切であります。

(一六)食物に好き嫌いの多き子供

日々の食事にも間食にも好き嫌が多く食物にむづかしい子供があります、中には野菜類のみを好みみて肉類其の他生臭きものは一切食さぬのもあります、之は體質の遺傳から多く来ますが又育てる際に言ふがまゝ、任せて味はせぬ所より益偏食の癖を作つたのもあります、棄て置きますと成人の後體質が弱く精神も早く疲勞し易く誠に心配の多いものであります、斯様な子供には充分運動を奨励し其の空腹な時に少し嫌なものでも何でも食せしめて終に習慣を改めしむるやう導くことが大切と思ひます、食物と精神との關係は申と長くなり申すから育てる時の注意が實に大切であると申して置きます。

(一七)他人の事を聞きたがり又言ひた

がる子供

自己に何も關係のない事を勉めて聞きたがり又

他人のことを言つて幾分か興味を感じて居る癖は大人にも少く無いやうで子供にも此の癖が傳染して居るのを見ます、子供に此癖のあるのは多く境遇から来たもので誠に下劣な習慣であると思ひます、之は多言を戒めて慎ましめ制裁を嚴にし一方淡泊の氣質を奨むるやう注意せねばならぬと思ひます。

(一八)嫉妬深き子供

女子に多く此の性がありますが男の子にもあります、特徴として交る所の朋友が種々に變り甲の子供と睦しかりしものが忽ち乙と親しみ甲とは反目の姿となり丙丁と次第に移り又悪感情を持つて報復の念が盛んであります、斯様な子供は成るだけ平な心の子供と交らしめ其の事實毎に能く訓戒して改悛せしめて次第に性質を一變するやうになれば幸福と思ひます。

(一九)人を羨む心の深き子供

衣服にても品物にても又學業の成績にても己に勝ると思ふ時は非常に他人を羨む性の子供があります、此の癖は危険に陥ることがありますから最も注意せねばなりません、先づ分に安んずるやう萬事を躰け何事にも自己のなす業に専ら心を用ひしめ久しき間に自信力を養成するやう努力し不識の中に改めしむるやう勉めねばならぬと思ひます。

(二〇) 慘酷な癖のある子供

稀には非道な質を持つ子供があります、例へば遊ぶ中にも直き物を毀損したり動物などを苦しめて興じがり時としては朋友を苦しめて泣かせたりする性質があつて甚だ慘酷な者があります、之も遺傳と境遇と二つありまして矯正するに特別の訓育を永く施さねば改めしむことが困難であります慈悲深い温良の質ある朋友を選みて之と交はらしめ一方博愛慈善の教訓を多くし指導者は勉めて實

踐上の機会を與て慈愛の情を経験せしむることが必要と考へます。

以上擧げました所は子供の惡癖とも申もの、中の僅かな例に過ぎませぬ、又其の矯正の方法とても盡したものではありません、唯世の父母保母教師たる兒童教育の責任ある人々は深くこれに注意し形式ある教授訓練の外に於て教育の必要あることを思ひ事實上訓育の効果を完ふせられたきことを望むの切なる所より敢て數言を費した次第であります、子供の癖を矯正するには自ら其の時期がありまして幼き頃に手を下さす程効の多きことは異々も申して置きます、子供は大人の眞似をすること猿のやうであると昔から俗に申して居りますが至言であると思ひます、形戒を定めて教育せぬとも子供は總て大人を模倣して自ら修養するものでありますから子供が具へて居る所の習慣は善惡とも大人より移し植たものと見ても過言で無らうと信

じます。

本問題の外子供の具ふる美質に就て調べますと
實に澤山ありまして之を助成して練習し人格の根
抵を成さしめ智力の基礎を作らしむる上に於て具

子供の衛生

寒胃の豫防と手當

この間から寒胃が一番はやつて居ります。寒胃
の豫防として、家に依つては、無暗と着物を澤山
に着せたり、室を過度に温めたりする家庭もあり
ますが、それは反つて豫防にはならないのであり
ます。勿論、寒さに犯されないやうにして置くこ
とは必要でありますけれども、それ以上に出て人
工的に温めるよりは、寧ろ、幾らか寒さに慣らす
やうにして置く方が、豫防としては効果があらう

體的に研究するのは一層の興味があると考へます
他日機會あれば鄙見を述べて教を乞ひたいと思ひ
ます。(をばり)

醫學士 石 塚 保 吉

と思ひます。風を引くと云ふことは、温度の變化
が劇しい爲めに起るので、例へば温かき家の中に
居つたものが急に外の寒風に遭ふとか、着物を澤
山に着て居たのを、襦袢を換へる爲めに急に寒く
すると云ふやうな原因が主となつて居るのであり
ます。故にさういふ變化をさせない爲めに、平素
から適度の衣服を着せて置方がよいと思ひます。
これと反對に、いよく風を引いてからは、寒
さにならすといふことは、絶対にいけないので、